

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																											
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		千葉 茂		〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																											
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111																											
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																										
文化・教養	芸術専門課程	グラフィックデザイン科				平成17年文部科学大臣 告示第177号	-																										
学科の目的	Macによるデザイン制作・画像加工の基礎から、ポスター・フライヤー・雑誌等印刷のためのコンピュータによる印刷入稿データ(DTP)技術の修得、デッサン・色彩・平面構成からグラフィック・イラストレーション等デザインセンスの基礎から応用を修得し、実践的な能力を備えた広告・印刷業界で活躍する人材を育成する。																																
認定年月日	平成27年2月17日																																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																										
3年	昼間	2490時間	540時間	0時間	2280時間	0時間	0時間																										
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																											
80人		89人	10人	2人	10人	12人																											
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定																												
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月8日 ■学年末:3月17日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学内における担任との個人面談を基本とし、困難な場合は電話やEメール等でも相談対応や指導をしている。また状況に応じて保護者との共有や連携をとった指導を行っている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有																												
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 広告・雑誌編集・印刷等(オンデーズ、電通tempo、ベルク、タイラ、アドヴァン、ビルボ、アイエー、光陽メディア等) ■就職指導内容 応募書類添削指導、面接指導、身だしなみ含め就職マナー指導など ■卒業生数 47人 ■就職希望者数 45人 ■就職者数 38人 ■就職率 84.4% ■卒業者に占める就職者の割合 : 80.9% ■その他 その他:7人 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 企業連携課題: 三菱鉛筆株式会社 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 他					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③	43人	30人																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																														
ビジネス能力検定	③	43人	30人																														
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和2年4月1日時点において、在学者 150名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日において、在学者 146名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職、進学)、経済的理由、病気治療、成績不良等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による面談を重ね、状況により担任の上長面談、保護者への情報共有などを行う。 また、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活ではカウンセリングルームを設けて、個々の学生に適した指導・助言・相談等を行い、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談もしている。			中退率	3%																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・片柳学園入学金免除制度、・若きつくり人奨学金(片柳学園給付型奨学金)、再入学優遇制度、片柳学園貸与型奨学金、留学生特別給付制度、ミュージシャン特待生 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/design/graphics/																																

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

グラフィックデザイン分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。カリキュラムについては年度ごとに総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。「作品づくりはパソコンですべて完結することが多くなるため、制作プロセスが重要であることを学生に伝え、しっかり制作途中でも内容のチェックを行ってほしい」という委員からの意見を取り入れ、グラフィックデザイン実習2A,2B,2C(1年次後期)、グラフィックデザイン実習3A,3B,3C(2年次前期) 総合実習3.4、実践課題制作(3年次前期)等の科目でそれを反映させた授業を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月20日現在

名前	所属	任期	種別
浅野 健	印刷工業会副会長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	①
古木 勝紀	三本旗合同会社 代表	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	③
犬飼 健二	有限会社犬飼デザインサイト 取締役社長・アートディレクター	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	③
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	
鶴田 勇一	日本工学院専門学校 グラフィックデザイン科 参与	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年9月11日 14:30～16:30 *3月10日に開催を予定していたがコロナ感染予防対策の延期し、第2回と同時開催。

第2回 令和2年9月11日 14:30～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

昨年8月に行った教育課程編成委員会では、本科2年生が企業や地域の団体等と連携して行ってきた実践的課題(三菱鉛筆の製品販売容器のデザイン、キャノンマーケティングジャパンの製品広告デザインなど)が高く評価された。またスポーツイベントの関連グッズをデザインした連携課題では、グッズの商品化と販売にも参画し制作物が顧客に届くまでを体験しさらに実践的な授業の内容を深めることができた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
実践的な指導を受けるにあたり、関連分野の実績や、知識、技術、制作管理能力に基づく指導力を有する講師の派遣協力が得られる企業を選定し、両社で合意したシラバスに基づき授業運営を行う。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容		
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記		
学科担当教員と企業派遣講師との間でデザイン技術や知識について意見を交換し、授業計画、評価方法、学生指導上の問題点、改善案などを計画し、実際に授業を行う。授業の成果物をもとに派遣講師が採点し、学科担当教員が成績評価・単位認定を行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な2科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
グラフィックデザイン実習3C	PCIによるデザインとレイアウトについて学び、ポスターやカタログ等の入稿までのルールを学びます。	有限会社 シエル
グラフィックデザイン実習5A	企業や商品のブランディングを企画・制作し、アートディレクターの役割を理解します。	株式会社ハツメイ
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
「研修規程第1条 教員が専攻分野における授業科目や授業科目以外の担当業務等指導力の修得と向上を目的として、企業等連携研修を行う講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定」における目的に沿い、講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得させる。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
富士通JAPAN株式会社 文教ソリューションビジネス統括部GIGAスクール推進グループ 乃一氏による「GIGAスクール・プログラミング教育の現状について」レクチャー		
1. GIGAスクール/プログラミング教育の概要(計画や実施状況、スケジュールなど) 2. 小中高のGIGAスクール授業(先進事例や取り組みなど) 3. 今後の求められる人材 これからの小中高の学生がどのような学びを身につけて高校を卒業するかなど実際にGIGAスクールを推進している観点で講演。		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
早稲田大学人間科学学術院教授 向後千春氏によるE-Learningに関する研究に基づいたオンライン授業に関してレクチャー		
向後千春氏:1958年生まれ。早稲田大学人間科学学術院教授。博士(教育学)(東京学芸大学)。専門は教育工学(特に、eラーニング、インストラクショナルデザイン)、教育心理学、アドラー心理学。		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名「デザイン、印刷、コンテンツ業界の現状と展望」 (連携企業等:未定) 期間:令和2年8月または令和3年3月 対象:グラフィックデザイン科教員 内容:デザイン業界のテクニカル面の新しい情報を収集。授業への展開について考察する。		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名「学生指導の新しいスキル」 (連携企業等:未定) 期間:令和2年8月または令和3年3月 対象:グラフィックデザイン科教員 内容:時代とともに変化する学生の気質を分析し、様々な指導方法を吸収する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	IT企業等委員/卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	地域関連/会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター顧問	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	クリエイターズ/デザイン企業等委員
西川 恭子	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部长	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

<https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期:令和3年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めにに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11) その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 グラフィックデザイン科)令和3年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル	社会人に求められるマナーやコミュニケーション能力について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
2	○			キャリアデザイン1	デザイナーとして働くための知識を身につけます。	1・後	30	2	○			○			○	
3	○			デザイン概論	デザインの領域とその変遷について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○			コミュニケーション論	コミュニケーションにおけるデザインのあり方を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
5	○			美術概論	美術史における歴史的な表現について学びます。	1・後	30	2	○			○	○		○	
6	○			DTPデザイン概論	印刷における文字と組版、配色、画像、編集物などの役割とルールについて学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
7			○	資格対策講座1	色彩検定などの資格取得に向けての講座です。	1・通	30	2	○			○			○	
8			○	資格対策講座2		1・通	30	2	○			○			○	
9	○			基礎デザイン実習A	鉛筆によるデッサンやスケッチを通じて観察力、基礎描写力を身につけます。	1・前	60	2				○	○		○	
10	○			基礎デザイン実習B	さまざまな素材を使いながら立体・空間構成力を身につけます。	1・前	60	2				○	○		○	
11	○			基礎デザイン実習C	形態、素材、色彩、構造について学び、平面構成力を身につけます。	1・前	60	2				○	○		○	
12	○			基礎デザイン実習D	PC用デザインツールのIllustrator、Photoshopの知識と基礎技術を身につけます。	1・前	60	2				○	○		○	

13		○	グラフィックデザイン実習1A	グラフィックデザインに関する技術と知識を学び、作品を制作します。	1・前	60	2				○	○					○	
14		○	グラフィックデザイン実習1B	イラストレーションに関する技術と知識を学び、作品を制作します。	1・前	60	2				○	○					○	
15	○		総合実習1	前期のまとめとして作品を制作します。	1・前	60	2				○	○					○	
16	○		総合実習2	後期のまとめとして作品を制作します。	1・通	60	2				○	○					○	
17	○		グラフィックデザイン実習2A	課題制作を通して、学科の専攻内容や表現特性について学びます。	1・後	60	2				○	○					○	
18	○		グラフィックデザイン実習2B	タイポグラフィ、ピクトグラムなどの制作を通し、情報をグラフィカルに表現する技術を学びます。	1・後	60	2				○	○					○	
19	○		グラフィックデザイン実習2C	PCによるデザインとレイアウトについて学び、入稿までのルールを学びます。	1・後	60	2				○	○					○	
20		○	広告・雑誌デザイン実習	ポスター、パッケージ、カタログなどの販売促進ツールや雑誌を制作します。	1・後	60	2				○	○					○	
21		○	イラスト・絵本実習	さまざまな描画技法を学び、広告、雑誌、絵本、グッズのための作品を制作します。	1・後	60	2				○	○					○	
22		○	デザイン研修1	研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	1・後	30	2	○									○	○
23	○		キャリアデザイン2	自己分析に基づき進路を考えます。	2・前	30	2	○				○					○	
24	○		キャリアデザイン3	就職活動に関するノウハウを学びます。	2・後	30	2	○				○					○	
25	○		コンセプトワーク	マーケティングの手法を理解し、企画を立案するプロセスを学びます。	2・前	30	2	○				○					○	
26	○		作品研究1	さまざまなデザイナー、表現者の作品を鑑賞します。	2・前	30	2	○				○					○	
27	○		作品研究2		2・後	30	2	○				○					○	

28	○		知的財産権／ リテラシー	知的財産に関する知識とデザイナーに必要な批評眼を養います。	2・ 後	30	2	○			○		○						
29		○	資格対策講座 3	色彩検定などの資格取得に向けての講座です。	2・ 通	30	2	○			○						○		
30		○	資格対策講座 4		2・ 通	30	2	○			○							○	
31	○		グラフィックデ ザイン実習3A	ダイアグラムなどの制作を通し、情報をグラフィカルに表現する技術を学びます。	2・ 前	60	2			○	○						○		
32	○		グラフィックデ ザイン実習3B	写真と動画の撮影、加工、編集について学び、映像をデザインします。	2・ 前	60	2			○	○							○	
33	○		グラフィックデ ザイン実習3C	PCによるデザインとレイアウトについて学び、ポスターやカタログ等の入稿までのルールを学びます。	2・ 前	60	2			○	○						○	○	
34		○	広告デザイン 実習1	商品、イベントなどの販促ツールの企画・制作を行います。	2・ 前	60	2			○	○							○	
35		○	広告デザイン 実習2		2・ 後	60	2			○	○								○
36		○	雑誌デザイン 実習1	企画、取材、撮影、レイアウトといったプロセスを経験し、雑誌を制作します。	2・ 前	60	2			○	○							○	
37		○	雑誌デザイン 実習2		2・ 後	60	2			○	○								○
38		○	イラストレー ション実習1	さまざまなメディアに合わせたイラストレーションを制作します。	2・ 前	60	2			○	○							○	
39		○	イラストレー ション実習2		2・ 後	60	2			○	○								○
40			絵本実習1	ストーリー制作、描画、レイアウト、製本といったプロセスを学び絵本を制作します。	2・ 前	60	2			○	○								○
41		○	絵本実習2		2・ 後	60	2			○	○								
42	○		総合実習3	前期のまとめとして作品を制作します。	2・ 前	60	2			○	○							○	○

43	○		総合実習4	後期のまとめとして作品を制作します。	2・後	60	2				○	○					○	
44		○	グラフィックデザイン実習4A	企業や商品のブランディングを企画・制作し、アートディレクターの役割を理解します。	2・後	60	2				○	○					○	
45		○	グラフィックデザイン実習4B	PCを使ったグラフィックスキルのクオリティとスピードを向上するトレーニングを行います。	2・後	60	2				○	○					○	
46		○	グラフィックデザイン実習4C	写真や動画を使った作品の制作に取り組みます。	2・後	60	2				○	○					○	
47	○		ポートフォリオ制作	就職活動用に、自分自身をアピールするための作品集を制作します。	2・後	60	2				○	○					○	
48		○	インターンシップ1	デザインの仕事を体験するため、実際に会社で短期研修を行います。	2・通	60	2				○		○				○	
49		○	デザイン研修2	研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	2・通	30	2						○				○	
50	○		キャリアデザイン4	就職活動に関するノウハウを学びます。	3・前	30	2	○				○					○	
51		○	キャリアデザイン5		3・後	30	2	○					○				○	
52		○	資格対策講座5	色彩検定などの資格取得に向けての講座です。	3・通	30	2	○				○					○	
53		○	資格対策講座6		3・通	30	2	○					○					○
54		○	グラフィックデザイン実習5A	企業や商品のブランディングを企画・制作し、アートディレクターの役割を理解します。	3・前	60	2				○	○					○	○
55		○	グラフィックデザイン実習5B	PCを使ったグラフィックスキルのクオリティとスピードを向上するトレーニングを行います。	3・前	60	2				○	○						○
56		○	広告デザイン実習3	商品、イベントなどの販促ツールの企画・制作を行います。	3・前	120	4				○	○	○					○
57		○	雑誌デザイン実習3	企画、取材、撮影、レイアウトといったプロセスを経験し、雑誌を制作します。	3・前	120	4				○	○						○

58		○	イラストレーション実習3	さまざまなメディアに合わせたイラストレーションを制作します。	3・前	120	4				○	○			○
59		○	絵本実習3	ストーリー制作、描画、レイアウト、製本といったプロセスを学び絵本を制作します。	3・前	120	4				○	○			○
60	○		実践課題制作	企業や地域と連携した実践的な課題制作を行います。	3・前	180	6				○	○		○	○
61	○		卒業制作	各自またはゼミのテーマに基づき、3年間のまとめとしての作品を制作します。	3・後	420	14				○		○		○
62		○	インターンシップ2	デザインの仕事を体験するため、実際に会社で短期研修を行います。	3・通	60	2				○	○			○ ○
63		○	デザイン研修3	研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	3・通	30	2	○					○	○	
合計				63 科目	3780 単位時間(148 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	卒業時に必修科目1890時間(76単位)取得および選択科目を600時間(20単位)以上取得し、合計2490時間(96単位)以上取得すること	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。